

タ マ ネ ギ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に不完全ではあるが転換する型であり、窒素の吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壌の残存養分は比較的強く制御できる。タマネギは吸肥力が弱く、とくにリン酸の吸収が弱い。さらに、低温期に定植するため、堆肥施用とともに基肥に十分なリン酸を施用することが重要である。また、石灰、苦土、硫黄などの要求量が多いことにも十分に配慮する。窒素については、春の伸長期から急激な吸収がはじまるので、追肥重点とする。

〔病害虫・雑草防除〕

連作するとネダニや土壌病害が多発するので、ユリ科作物の過度の連作は避ける。排水と通風を良好に保ち、病害虫の発生を防ぐ。育苗期には雨よけや防虫ネットによる被覆を行い、病害虫防除を徹底する。罹病株や害虫寄生株は本圃に定植しない。本圃では、病害虫の早期発見、適期防除を行い、化学農薬使用の低減を図る。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用に当たっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥 2～3t/10a
化学肥料 低減技術	基肥は局所施肥(条施肥など)するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で施肥基準以下  有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%
化学農薬 低減技術	B T剤をローテーション散布に位置づける。 (対象：ヨトウムシ類) 光反射マルチを利用する。 (対象：アブラムシ類、ウイルス病、雑草など) 育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 (対象：アブラムシ類など) 被覆資材により雨よけ栽培を行う。 (対象：べと病) 性フェロモン剤による発生予察、誘殺を行う。 (対象：ハスモンヨトウ) マルチ栽培を行う。 (対象：雑草など)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	硫黄の要求量が多いため、硫安などの硫酸根肥料を使用するなどの配慮をする。 貯蔵用の生産の場合には、窒素、リン酸の施肥量を少なく抑え、貯蔵中の腐敗を防止する。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 枯死葉などの伝染源を畑に残さないようにする。 (べと病、黒斑病など) 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	